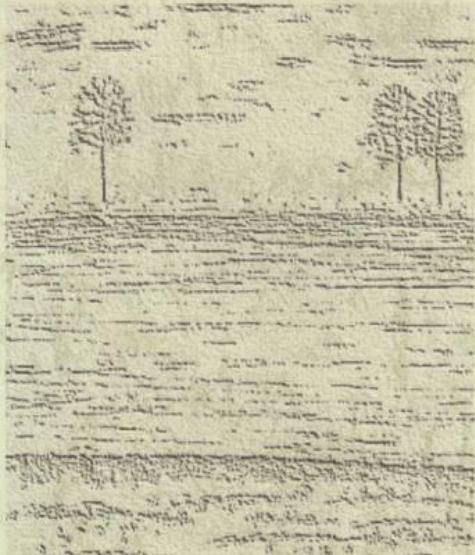


Chœur Rechant



クール・ルシャン

第1回
演奏会

1999年7月11日(日)

すみだトリフォニー小ホール

口上

大場 点

男女三十四は仕事子育て諸々の事情にて多忙を極め、なかなかして趣味などにうつつをぬかす訳にはいきません。然れども、かつては合唱に心血を注いだ身ならば、機会さえ整えば再び歌い出さんと願っていたはずであります。昨年四月、小生と川崎・湯浅両氏の呼びかけに応じ集まりし同志二十数名、とりあえず一年間の約束でクール・ルシャンなる合唱団を結成、月に二回の練習を一年三ヶ月続けてようやく本日の演奏会を迎える運びと相成りました。団名ルシャンは返り歌の意にて、ルネサンスの作曲家ル・ジュヌの用いた手法の一つです。この名称には、回帰することへの想い、そして願いが込められています。それは、団員各々が生活の一部に再度合唱を組み込む作業でもあり、また合唱音楽自体をもう一度見直してみることでありました。本日の演目はそうした視点に立ち、前半は西欧の合唱音楽の基礎となるルネサンスの作品を、後半は西欧の音楽手法が我が国に導入されて間もない頃の作品を取り上げてみた次第です。初めての演奏会につき、多少の目障り耳障り等はお勘弁いただき、どうぞ最後までお楽しみ下さい。なお、末筆となりましたが、本日の演奏会を迎えられず昨年他界された団員、故脳本真理さんの冥福をお祈りすると共に、追悼の意を込めて第四ステージ「沙羅」の演奏を彼女に捧げたいと思います。

プロフィール

指揮者 大場 点

千葉大学大学院理学研究科修了。某会社の研究開発部にフッ素化合物の研究に従事。不整脈、肩こり、腱鞘炎などの病を常に抱えている。「にもかかわらず、えらいぞ」(ひとりごと)。

ピアニスト 木内博和

千葉大学園芸学部卒業。現在、千葉県内某市役所勤務。柏市の自宅はコンサート・ホール「フリュゲル・ザール」を兼ねている。「沙羅のテノールがどうも心配で...」(テノール以外一同)。

ヴォイストレーナー 桜井和子

上野学園大学音楽部声楽科卒業。平田黎子、森明彦両氏に師事。本年4月よりお迎えした。なまりきった肉体を鍛えなおしてくれている。「ううっ、筋肉痛が...」(団員一同)。

プログラム

I トマス・タリス Thomas Tallis (1505-1585)

5声のモテット

Salvator mundi, salva nos	世の救い主よ
Te lucis ante terminum	日の光の消える前に
O nata lux	おお、光から生まれた光
O sacrum convivium	おお、聖なる饗宴よ

II ジョン・ダウランド John Dowland (1563-1625)

歌曲集第1巻より

Whoever thinks or hopes of love	愛に望みを託す者
Go, crystal tears	行け、透明な涙よ
Come away, come, sweet love	おいで、可愛い人
All ye, whom Love or Fortune	君たち、愛と運命に裏切られた者

Intermission

III 信時 潔 (1887-1965) 編曲/武田忠一郎 採譜

民謡編曲集より

南部松坂節	(青森地方)
豊年祝い唄	(下北郡大畑町地方)
代掻き唄	(三戸郡下長苗代村地方)
道中唄	(三戸郡北川村剱吉地方)
田植唄	(三戸郡上長苗代村下長苗代村地方)
餅搗き鐘の唄	(下北郡地方)
鴨あ落ちた	(三戸郡下長苗代村地方)

IV 信時 潔 (1887-1965) 作曲

清水重道 作詩/木下保 編曲 (一部原曲)

歌曲集「沙羅」

丹澤	混声
あづまやの	男声 (原曲)
北秋の	女声
沙羅	混声 (原曲)
鴉	男声 (原曲)
行々子	女声
占うと	混声
夢	混声

ピアノ 木内博和

指揮 大場 点

曲目解説

I 5声のモテット

トマス・タリス 作曲

イギリスのルネサンス音楽は、バラ戦争終結後のヘンリー八世からエリザベス一世の治世に大きな発展を遂げた。タリスは、この時期の特に教会音楽の分野での重要な作曲家の一人である。彼は、各地の修道院のオルガニストを勤めた後、1543年より晩年に至るまで王室礼拝堂の一員として活躍した。当時、英国国教会が成立したものの、政治的状況から宗教的立場が二転三転することが続き、そのたびに教会音楽の作曲家たちは作品をラテン語で書いたり英語で書いたりしなければならなかった。タリスも例外ではなく、ラテン語の宗教作品が約46曲、英語の作品が約39曲残されている。本日演奏する4曲は、すべてラテン語による5声部のための宗教作品である。“世の救い主よ”は、聖なる十字架の賞賛の祝日でのアンティフォナによる。“日の光の消える前に”は、復活祭を除く期間の終課のための讃歌によるもので、第2節のみに曲付けがされている。“おお、光から生まれた光”は、変容の祝日における讃歌によるもので、ホモフォニックな作品。“おお、聖なる饗宴よ”は、キリスト聖体の祝日のためのマニフィカート・アンティフォナによる。

II 歌曲集第1巻より

ジョン・ダウランド 作曲

イギリスのルネサンス世俗歌曲は、16世紀後半にイタリア・マドリガーレの影響を受けてめざましく発展した。これらはアマチュアの中流市民を対象としており、親しみやすい旋律を基に自然な音楽の流れに重点が置かれている。ダウランドは、この分野での重要な作曲家の一人であり、多くのリュート伴奏つき歌曲を生み出した。彼の作品はその甘美で叙情的な旋律から、今日でも広く愛好されている。本日演奏する4曲が収められている歌曲集第1巻は、1597年に出版されたイギリス最初のリュート歌曲集であり、独唱や四重唱などさまざまな演奏様式が可能な21の歌曲から構成されている。“愛に望みを託す者”は、歯切りれの良い四拍子の曲。“行け、透明な涙よ”は、憂愁の雰囲気を感じた重厚な力作。“おいで、可愛い人”は、歌曲集中もっとも素直で飾り気のない愛すべき作品。“君たち、愛と運命に裏切られた者”は、ポリフォニー的傾向が強クイタリア・マドリガーレの影響が現れている。

曲目解説

III 民謡編曲集より

信時 潔 編曲

信時潔は、同世代の山田耕筰とともに、西洋音楽に基づいた日本歌曲の確立に大きく貢献した作曲家である。彼は、東京音楽学校にてチェロを学び、その後ドイツに留学してゲオルグ・シューマンに作曲を師事した。帰国後は母校にて作曲科教授を務め、その間に母校その他の合唱団のために合唱曲の作曲および編曲を行っている。昭和26年に刊行された合唱曲集には彼の合唱作品40数曲が収められているが、そのうちの約30曲は日本民謡の編曲である。それらの多くは東北民謡によったものが多く、序文にて信時は「東北民謡がその大らかさ、お座敷化せぬ自然さ、旋律の多様性等から見て、合唱化に適当と思われた」と述べており、民謡に対する彼の思い入れの深さが窺われる。これらのほとんどは技巧的に凝った点が少なく、素材の本来の良さを引き出そうとしているものが多い。

IV 歌曲集「沙羅」

信時 潔 作曲

歌詞は、作曲者の東京音楽学校での同僚である国文学者、清水重道による。昭和10年に完成、翌11年に出版発表された。全8曲よりなり、その枯淡な味わいと純日本的な香りから、彼の代表作の一つとなっている。彼の作品は、山田耕筰の華麗で絢爛な作風に比べ、ドイツ古典派の手法に基づく日本的な、ある意味では無技巧的ともいえるものであった。しかしながら、その素朴な味わいは今なお色褪せず人々に愛され続けている。

合唱版「沙羅」は木下保氏により、昭和15年に女声合唱、42年に男声合唱、そして54年に混声合唱への編曲が行われている。それらはメロディーに和音付けを施す程度に留められており、原曲の味わいが忠実に生かされた作品となっている。本日のプログラムでは、混声・女声合唱編曲版と斉唱による原曲とを織り交ぜた構成とした。それぞれの趣の違いを味わってみたい。

メンバー

Soprano

尾形 晃子
塚谷 芳子
豊崎 光子
西久保 恵
林 礼子
堀野 直美
渡辺 亜紀子
長島 裕子

Alto

稲葉 由美子
大場 睦子
大樋 彩子
草場 澄江
来栖 美和子
柴 信子
増田 佐知子
堀内 みずき

Tenor

川崎 将人
木内 博和
草場 康裕
渡辺 晋久

Bass

天沼 透
有馬 秀夫
大場 点
大樋 亨
澤野 理
増田 正樹
湯浅 康弘



クール・ルシャン 第2期メンバー募集

クール・ルシャンでは次期活動を以下の日程にて開始するにあたり、団員を募集しています。どうぞ気楽にご参加下さい。

練習：毎月第2・4土曜日 18:30～21:30 市川文化会館など
期間：1999年8月28日～2000年6月(第2回演奏会を予定)
練習曲目：マジョー生誕700年？ 記念として、ノートルダム・ミサ曲からの抜粋など。また、デュファイ生誕600年？ 記念として…。

子連れでの練習参加可です！(練習場の半分は子供の遊び場)。
連絡先： XXXXXXXXXX